

(別紙1)

管理運営状況 評価シート【平成 29 年度】

(評価日 平成 30 年 6 月 15 日)

1 施設の概要

施設名	岩手県立水産科学館
所在地 電話・FAX HP・電子メール	宮古市日立浜町 32 番地 28 TEL 0193-63-5353 FAX 0193-64-4855 http://www.city.miyako.iwate.jp/suisan/suisan_kagakukan.html
設置根拠	水産科学館条例
設置目的	(設置：昭和 61 年 4 月 18 日) 水産資源、水産技術等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の水産についての知識の普及及び教養の向上を図る。
施設概要	敷地面積、建物面積、主な施設、利用定員等 敷地面積 5,671m ² 建物面積 1,535m ² (常設展示室 600m ² 、特別展示室 100m ² 、集会室 70m ² 、エントランスホール 135m ² 等)
施設所管課	岩手県農林水産部水産振興課 (電話 019-629-5817 メールアドレス AF0013@pref.iwate.jp)

2 指定管理者

指定管理者名	宮古市
指定期間	平成 27 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 (3 年間)
連絡先	宮古市産業振興部水産課 TEL 0193-62-2111

3 指定管理者が行う業務等

業務内容 (主なもの)	管理運営及び企画全般、資料の収集、保管、展示、入館料収納事務、宣伝、広報等		
職員配置、管理体制	8 名 (平成 30 年 3 月 31 日現在) (内訳) 正職員 3 名、非常勤職員 2 名 臨時職員 3 名	組織図 館長 (非常勤) 一係長一主査一主任一資料・水槽管理 3 名 (非常勤 1 名・臨時職員 2 名)一事務補助 1 名 (臨時職員)	
利用料金	一般 300 円 (※団体 1 人につき 140 円)、大学生・専門学校生等 140 円 (※団体 1 人につき 70 円)、高校生以下無料 ※20 人以上での来館は団体料金		
開館時間	9 時から 16 時 30 分まで ※通常の開館時間外の入館希望者があった場合は、随時対応	休館日	月曜日 (祝日と重なる場合は一番近い平日) 年末年始 (12 月 28 日から 1 月 4 日まで)

4 施設の利用状況

(単位：)

(利用者数、稼働率等)	前期間 平均	指定管理期間				備考
		27 年度	28 年度	29 年度	期間平均	
第 1 四半期	3,526	2,570	2,598	2,902	2,690	
第 2 四半期	6,937	7,755	5,365	6,408	6,509	
第 3 四半期	1,516	1,765	1,354	1,435	1,518	
第 4 四半期	2,089	1,472	1,306	1,581	1,453	
年間計 (実績)	14,069	13,562	10,623	12,326	12,170	
年間計 (計画)		14,974	14,974	14,974		

5 収支の状況

(単位：千円)

区 分	前期間 平 均	指定管理期間				備考	
		27年度	28年度	29年度	期間平均		
収入	指定管理料	30,272	30,864	30,864	30,864	30,864	
	入館料等	2,067	2,057	1,576	1,801	1,811	
	小計	32,339	32,921	32,440	32,665	32,675	
支出	報酬	4,577	4,622	4,622	2,848	4,031	
	給料	7,416	7,828	7,973	8,031	7,944	
	職員手当等	2,857	3,239	3,376	3,510	3,375	
	共済費等	5,896	5,615	5,773	7,735	6,373	
	需用費	9,883	10,522	10,205	9,405	10,044	
	役務費	755	797	851	748	799	
	委託料	6,543	6,346	8,293	7,027	7,222	
	賃借料	894	843	842	954	880	
小計	38,821	39,812	41,935	40,258	40,668		
収支差額	-6,482	-6,891	-9,495	-7,593	-7,993		

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見（満足度等）の把握方法

把握方法	入退館時の聞き取り、イベント時のアンケート	実施 主体	県立水産科学館
------	-----------------------	----------	---------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情 件、要望 件、その他 件
主な苦情、要望等	対応状況
①夏期の、館内冷房が強すぎではないか	活魚展示用水槽の、水温上昇を抑えるためであることを、貼り紙で掲示している。入館者からの申出に対しては、口頭での説明も行っている。
②常設展示室の照明が弱く暗い	海中をイメージした演出である旨を、貼り紙及び口頭で説明している。
<p>その他利用者からの積極的な評価等</p> <p>宮古近海に棲息しているものを中心として、生きた魚介類の展示も行っており、入館者に好評である。休憩スペースに、魚介類をデザインしたスタンプやパズル等を用意しており、特に子供に好評である。館内での、写真やビデオの撮影について自由に行ってもらっており、これも入館者に好評である。</p>	

7 業務点検・評価 (※)

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運営業務	仕様書及び関係法令に基づき次の業務を完全に履行すること。 【業務区分】 管理運営業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経理事務 ・ 物品の整理、保管 ・ 設備の操作 ・ 資料の収集、保管、展示 ・ 資料の調査、研究 ・ 報告書の刊行 ・ 入館者の案内、解説 ・ 宣伝、広報 【業務区分】 入館料収納事務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務全般について、職員間の情報共有に努め、適正な業務履行を行った。 ・ 現金の取り扱い等、経理事務について適正に遂行し、現金の過不足等は生じなかった。 ・ 物品の整理保管について、適正に行った。 ・ 館内設備の操作については、細心の注意を払って行った。 ・ 資料の管理・調査・保管について、適正に行った。 ・ 施設のPRについて、市公式ホームページへの掲載、市内各施設へのポスター掲示、市内教育施設や県内観光業者へのPRを行った。 ・ イベントに際しては、宮古市広報への掲載、市公式ホームページ及びフェイスブックへの掲載、各所へのポスター掲示依頼、市内教育機関等への案内、案内看板の設置、報道機関への情報提供を行い、周知を図った。 	A
施設の利用状況	平成24年度入館の利用者数（14,974人）を達成すること。	平成29年度の実績は12,326人であり、目標の達成には至らなかったが、対前年比116%の入館者数だった。	B
事業の実施状況	利用者ニーズに合った展覧会、研修会、講習会等を実施すること。	開催した企画展・イベントと参加者・入館者数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産科学館クイズラリー 308人 ・ こどもの日親子無料 281人 ・ 磯の生物展 5,357人 ・ 魚のお世話をしてみよう 10人 ・ 増坂勲遺作絵画展 1,663人 ・ 新巻鮭体験 50人 ・ 鮭革細工教室 27人 ・ わかめの学習・試食会 39人 ・ カラー魚拓講習会 17人 	A
施設の維持管理状況	仕様書及び関係法令に基づき次の業務を完全に履行すること。 【業務区分】 管理運営業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ 財産の維持管理 ・ 施設の防火管理、訓練 ・ 施設の警備 【業務区分】 清掃業務 【業務区分】 施設保守業務 【業務区分】 警備業務 【業務区分】 植栽管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正で効率的な施設の維持管理に努めた。 ・ 毎日数回館内を巡回し、館内設備の稼働状況を確認した。 ・ 職員の防火意識の向上に努め、火気の取扱いには最新の注意を払った。 ・ 自衛消防訓練を、図上・実働各1回行った。 ・ 専門的な業務については、専門業者へ委託して行った。 	A

記録等の整理・保管	各種管理記録簿等を整備、保管し、県の要請に応じて遅滞なく提示すること。	・各種記録簿等については、適切な整備・保管を行った。	A
自主事業、提案内容の実施状況	—	—	—
(施設所管課評価) ・成果のあった点…入館者数は目標値に届かなかったものの、観光関係と連携したり、教育関係施設等へも周知を図るなど、積極的にPRに努めたほか、新たな企画展を開催して閑散期の集客向上を務めた点などが評価される。 ・改善を要する点…特になし。			A

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	各業務に適した者を適正に配置すること。	・各業務について、各々の業務に適した職員を配置した。	A
苦情、要望対応体制	苦情、要望に対する対応を適切に行わない、職員間で情報共有を行うこと。	苦情や要望については、情報を職員間で共有し、可能な限り迅速に対応し、対応できなかった事例は無かった。	A
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	・災害時、緊急時における訓練を実施すること。 ・仕様書第11に定める対応（入館者に事故が発生した場合の応急手当等）を行うこと。	自衛消防訓練を実施し、火災を想定した避難誘導・消火活動の訓練を行った。 ・AEDを配備しており、その取り扱い方法について、消防署員を講師に迎え、救急救命訓練を行った。 ・非常灯や誘導灯等について、不備を発見したら、迅速な修繕を行っている。	A
コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	・職員の法令遵守の意識を啓発する取組を行うこと。 ・個人情報の保護等を定めた基本協定第6章を遵守すること。	・法令順守について、職員に周知徹底した。 ・個人情報の取扱いについては、最新の注意を払った。必要以上の個人情報については収集せず、個人情報が記載されている書類は確実に廃棄するよう心掛けた。宮古市の個人情報取り扱い手引書に基づいた取扱いを行った。	A
県、関係機関等との連携体制	・県に適宜連絡を行ない、円滑な運営を行うこと。 ・緊急時の連絡体制を構築すること。	・県と適宜連絡を取り合い、円滑な運営に努めた。 ・非常招集系統図を作成し、宮古市水産課との間でも、非常時の連絡体制を構築している。	A
(施設所管課評価) ・成果のあった点…職員間で情報共有を図るなど、適正な体制で運営していると認められる。 ・改善を要する点…特になし。			A

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運営業務	職員の接遇向上を図ること。	・職員間で気づいた点などを、全体で意見を出し合い、接遇の向上に努めた。	A

利用者サービス	利用者のニーズにあったサービス提供を行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・開館閉館時間について、その前後に入館希望があった場合は、基本的に受け入れて対応した。 ・入館者が多い8月前半には、通常は休館日である月曜日も、臨時開館として、入館者の利便性向上に努めた。 	A
利用者アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> ・正確なニーズ把握の方法を検討し、実施すること。 ・ニーズ把握の結果を分析すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で最も入館者数の多い「磯の生物展」の期間中に、入館者アンケートを実施し、入館者の要望の把握に努めた。 ・入館者からの要望等があった場合、実施可能な事柄であるか検討を行っている。 	A
(施設所管課評価) <ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点…利用者ニーズに合わせて柔軟に開閉館時間や臨時開館を行っているほか、集客力のあ るイベント（磯の生物展）時に利用者アンケートを行い、ニーズ把握に努めている。 ・改善を要する点…特になし。 			A

(4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	管理運営計画と収支実績が乖離していないこと。	ほぼ計画通りの実績となっている。	B
指定管理者の経営状況	—	—	—
(施設所管課評価) <ul style="list-style-type: none"> ・成果のあった点…概ね計画通りの実績と認められる。 ・改善を要する点…特になし。 			B

※（注1）県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

（注2）評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

<p>① 成果があった取組み、積極的に取り組んだ事項</p> <p>年間を通じて、適正で効率的な管理運営に努めた。</p> <p>当館の代表的なイベントである「磯の生物展」については、「第30回磯の生物展」を7月14日（金）から8月20日（日）までの期間で開催し、前年比130%ほどの入館者数だった。</p> <p>また、地元在住の画家制作の海や水産に関する絵画の寄贈を受けたことから、それらを展示した絵画展「増坂勲遺作絵画展～ふるさと宮古を愛した画家」を12月16日（土）～3月31日（土）までの期間開催した。</p> <p>開催期間中の入館者数は前年同期の120%ほどであり、例年閑散期である時期に多くの方に来館していただくことができた。</p> <p>例年行っている「新巻鮭体験」については、本年度は鮭の漁獲量の減少に伴い参加料を高く設定しなければならず、そのため参加者数は例年より少なめだったが、参加者からは好評だった。</p> <p>他にも、例年開催し好評を博している「鮭革細工教室」、「宮古のわかめは日本一！わかめの学習&試食会」、「カラー魚拓講習会」についても今年度も実施し、多くの方に参加いただいた。</p> <p>このような、参加者に好評のイベントを継続実施しながら、更に入館者の増加につながる取組を行ってみたい。</p>
--

② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項

本年度は、自然災害の影響があった前年度を、入館者数で上回ったが、更に入館者増に向けた取り組みが必要と思われる。

冬季の入館者の増加は以前からの課題であり、新たなイベントや企画展を開催しているところだが、その期間に限らず、入館者の増加に向けたイベントや体験学習の検討を続けていきたい。

③ 県に対する要望、意見等

開館から30年以上経過し、館内設備に劣化が否めないものが少なからず存在する。

県と協議の上、順次対応しているところであるが、引き続き館運営に支障が生じないよう、配慮いただきたい。

(2) 県による評価等

① 指定管理者の運営状況について

自然災害や震災復興に係る道路工事等の影響もあり、入館者数は前期に届かなかったものの、観光施設や教育関係機関へ積極的に周知したり、閑散期である冬場の集客につながる企画展を開催したりと、集客に向けた取組を積極的に行っている点は評価に値する。

地元の漁業関係者等と長年にわたり良好な関係を築き、活魚や漁具を定期的に無償提供してもらうなど資料の収集にも積極的に取り組んでおり、総合的に高いレベルで、施設の管理運営が行われていると認められる。

② 県の対応状況について（自己評価）

計画的な施設の修繕に努めており、工事にあたっては運営に影響のないよう指定管理者と連携を密にして実施した。

施設の状況等について、随時、連絡を取り合い、現地確認を行うことにより、情報共有を積極的に図った。

③ 次期指定管理者選定時における検討課題等

施設竣工から30年が経過したことから、今後も計画的な維持修繕を実施して施設の管理運営を図っていく必要がある。

また、常設展示室の内容も開館当初から変わっておらず古くなっていることから、サービスの維持・向上に向け、計画的な模様替え等についても検討が必要。

9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）
特になし
改善状況
（指定管理者から県への報告年月日： 年 月 日）
改善状況の確認
（再評価年月日 年 月 日）